



とさのさとより

家族が賑やかになることが 楽しみ

おかだ ともひさ
岡田 朋久さん(43歳)

元々は県外で金融系の仕事に就いていましたが心機一転、農業がしたい!と思い、父の地元高知で就農して5年目です。担い手育成センターで研修後、春野町のトマト農家の下で修業し独立。37アールのハウスで、フルーツトマトとミニトマトを栽培し、とさのさとなどJAに出荷しています。農業は自分の努力が売上などの数字になって出るので、お客さんからの反応が直に感じられ、とてもやりがいがあります。

休みの日には子供と一緒に公園に行って遊んでいます。今年2人目の子供が産まれる予定で、さらに家族が賑やかになることを思うと、とても楽しみです。

少ない面積で高収量を 目指しています

しおた たいすけ
塩田 大助さん(37歳)

高校卒業後、県外の専門学校に進学し就職。その後、妻の妊娠を機に地元の高知に戻り、実家の農業を継ぎました。

初めはシシトウを栽培していましたが、コロナの影響により需要が激減したため、ピーマンに転作。現在は15アールのハウスで栽培しています。普及所の方と連携しながら、作業を簡略化しつつ、少ない面積で収量を確保できるような仕組み作りに取り組んでいます。

家ではネコを3匹飼っています。毎日、子供たちが寝付くまでそばで見守りながら、一緒に寝てくれるので、とても頼れる存在ですね。



森山より

高知
地区

から こんにちには
今月の〇〇 気になる人

ルミエールはるのより



信頼・安心感のあるご葬儀を

しおた かずとし
塩田 和寿さん(44歳)

普段は小倉町の「ルミエールこうち」で、ご依頼があった際には「ルミエールはるの」に勤務しています。ご葬儀の依頼から終了までは2~3日という短い時間ではありますが、ご親族の方々や喪家様に信頼・安心感を持っていただけるような葬儀を心掛けています。また、仕事でもプライベートでも、「ありがとう」を伝えることを大事にしています。

休みの日は、子供と一緒に外でサッカーをしたり、ライブに行ったりして過ごしています。

好きなバンドの音楽を聴きながら通勤するのが、日常の小さな楽しみです。

人生の基本は健康です

いちばらのぶ
市原 伸さん(81歳)

定年退職まで、社会保険の担当で公務員をしていました。現在は、更生保護女性会でボランティア活動をしています。普段は、「自分が食べたいな」と思った野菜や「飾りたいな」と思ったお花や植物を庭で育てたり、花いけや散歩などをして過ごしています。認知症予防に毎日1時間、指の運動も兼ねてピアノの練習もしています。人生の基本は健康。自分が元気であることが、お金には代えられない一番の宝物ですね。

最近嬉しかったことは、一番年下の孫が成人したことです。4人の孫全員が健康で、無事に巣立っていく姿を見れたことが嬉しいです。

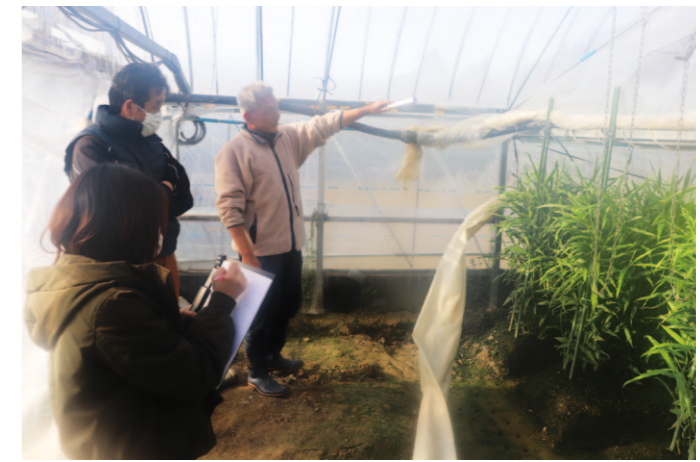
弘岡下より



JA組合員・地域のみなさまへ
葬儀・お墓・法要などの相談から、
会館の見学などの事前相談も承ります。
何なりとお問い合わせください。
JA葬祭会館「ルミエールはるの」
高知市春野町弘岡下1451-1
TEL: 088-894-5911

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



ハウス内で視察しながら意見を交わす部員ら

1 高知地区 春野生姜部会 今年初めての現地検討会開催

春野営農経済センターの春野生姜部会は1月26日、春野町で今年初のハウス新生姜の現地検討会を開催しました。同部員15人が参加し、同町内2カ所のハウスを視察。部員同士で生育状態を確認し合い、意見を交わしました。

営農指導課の池彰仁さんは今年、天候に恵まれていない。現地検討会を重ね、部会のA品率10%上昇を目指す」と意気込みを話しました。

同部会の生田幸孝部会長はハウスの様子を見て「病気等なくきれいな仕上がりに。被覆を3重にすることで重油コストを抑えるなど工夫が見え、各自出荷に向け準備ができています。収穫が楽しみ」と話しました。



来場者に「よさ恋人」を配布する西岡さん 写真②

2 営農販売事業本部 JA高知県職員が米の講話行う 県ブランド米もPR

高知県は1月22日、高知市で「高知家の早寝早起き朝ごはんフォーラム2022」を開きました。本イベントでは、お米アドバイザーの資格を持つ、JA高知県営農販売事業本部米穀課の西岡彰夫さんがお米に関する講話を行いました。日本における米の消費動向から、少子高齢化や食の多様化、新型コロナウイルスの影響などによって米の年間消費量が減少し続けていることを発表。需給のバランスや作付けの見直しが必要であることを話しました。また、同JAの主

要なブランド米「よさ恋人」など5種類の米を紹介し、来場者全員に2合ずつ配布しました。西岡さんは「家族と一緒に朝ごはんを食べ会話をすることで、子供のコミュニケーション能力・集中力向上やストレス軽減にもつながる。配布した『よさ恋人』を家族で食べてもらうことで高知米のブランドを知ってもらい、米の更なる消費と作付けに繋がれば」と話しました。

3 JAグループ高知 高知県農協農政会議・JA高知中央会 農政推進の集い開く



JAグループ高知の代表者や国会議員、高知県知事など約70人が出席しました。

JA高知中央会と高知県農協農政会議は1月5日、高知市で農政推進の集いを開き、令和4年の全国農政運動の結果や来年度の農政運動方針等について共有しました。

JA高知中央会総務企画部の藤井洋光部長は、JAグループ高知の令和4年農政活動について発表。JAグループ全国消費運動に合せて、再生産に配慮された適切な水準での価格転嫁につなげるため、消費者の行動変容に向けポスターやCMを作成したことや、売上の一部を産地に還元する「TOS ACHA茶りティーボトル」を販売した取り組みなどを報告しました。

5 高知地区 県内企業と県産企業で作った缶詰発売 アグリコレットへGO



横山店長「6個セットやアソートギフトも好評発売中です！」

「とさのさとアグリコレット」は昨年12月28日より、新商品「土佐あかうしのスジ煮込み鍋」を発売。県内企業3社と共同開発し、発売から2週間で約250缶を売り上げています！

同商品はコロナ禍で地域経済が落ち込んだ令和2年の夏、横山眞二店長が発案。横山店長は、保存食の概念を変えよう、と「グルメ缶」の開発に乗り出し、自分への「褒美や贈答品にもなる新商品が誕生しました。残り汁もご飯にかけて土佐あかうしのダシを味わえる、トウガラシとサトウキビ蜜が効いた甘辛い味付けに仕上がっています。

4 高知県 高知学芸中学高等学校で花いけバトル体験会 四国優勝チームも練習



花いけを行う宮本さん

高知県は1月13日、高知市の高知学芸中学高等学校で花いけバトルの体験会を開きました。体験会には同校華道部の生徒ら13人が参加。県産の花に触れ、自由に花を生ける楽しさを伝えました。

高知県が用意した県内産のユリ・ダリア・オキシペタラムなど30種類以上の花材を使い、生徒らは大会と同じ形式で練習。昨年10月に高知市で行われた四国大会で優勝したチーム「はるまき」の片岡里香さんと宮本晴さんも体験会に参加しました。「2人で動画を見ながら色合い・土台の作り方を研究している。本番も練習も、とにかく楽しみたい」と話しました。

6 JA高知女性組織協議会 ミドル世代を対象にした研修会開催 米袋バックも作成



米袋バックを作る参加者

JA高知女性組織協議会は1月20日、ミドル世代研修会を高知市で開きました。組織間の交流や学習、意見交換の場とすることが狙い。昨年度に続く2回目の開催で、約40人が参加しました。

日本協同組合連携機構基礎研究部主席研究員の小川理恵さんが「JAにおける女性の組織運営の意義と役割」と題し講演。小川さんは、女性の持つ「気づく力」「バネ」「つなぐ力」は「接着剤」と表現しJAの「宝」と強調。他県JA女性部の取り組みを例に挙げ発表しました。また、JA高知女性部れいほく地区の真辺由香副部長による、使用済みの米袋を使った米袋バック作りも行われました。

高知農業改良普及所より

農福連携の取り組みについて

●農福連携とは

農福連携とは、「農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組（令和元年 農福連携等推進ビジョンより）」のことで、「農業」と「福祉」がつながることで、様々なメリットが生まれることが期待できます（図1）。

●農福連携の取り組みパターン

農福連携にはいくつかのパターンがありますが、農業者が農福連携に取り組む方法としては大きく分けて次の2つがあります。

①直接雇用する方法

- ・農業者等が障害のある人を雇用し、農作業に従事してもらいます。
- ・農業者は作業指示や労務管理などを、全て自らの責任で行います。

②障害福祉サービス事業所に農作業を請け負ってもらう方法

- ・農業者が障害福祉サービス事業所（障害者に対する支援を行う施設、以下、事業所という。）に、農作業や加工等を委託します。
- ・農業者は、事業所と作業日程・作業内容を調整します。そして、事業所の職業指導員が、障害者の能力把握、作業指示とサポートを行います。

初めて農福連携に取り組む農業者の方には、福祉に関する知識が十分でなくても取り組みやすい②の方法をお勧めします。

●高知市農福連携研究会の紹介

令和元年7月に高知市における農福連携の促進及び関係機関の情報共有等を目的に、「高知市農福連携研究会（会長：高知市福祉事務所長、事務局：高知農業改良普及所）」を設立し、農福連携の理解促進やマッチングの拡大を支援しています。また、農業者の皆様が農福連携に関心を持ち、取り組みを始めるきっかけとして活用していただくために、農福連携に取り組む際の初歩的な知識や高知市内での取組事例を紹介した「始めよう！ 農福連携スタートアップガイド」を発行しています（図2）。

●さいごに

障害のある人が農業分野で活躍する場を創出し、農福連携の裾野を広げていくにあたっては、「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていかない」などの課題も指摘されています。まずは、農業側、福祉側双方がお互いのことを知り、農福連携について理解することから始める必要があります。農福連携のメリットや取組方法、どんな作業が依頼できるかなどのご質問やマッチング依頼、スタートアップガイドのご希望等がありましたら、お気軽にお問合せください。

図1 農福連携のイメージ

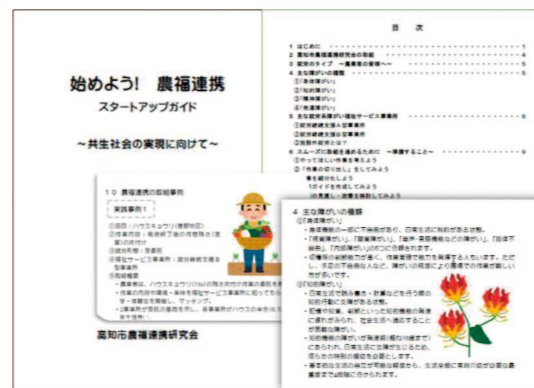
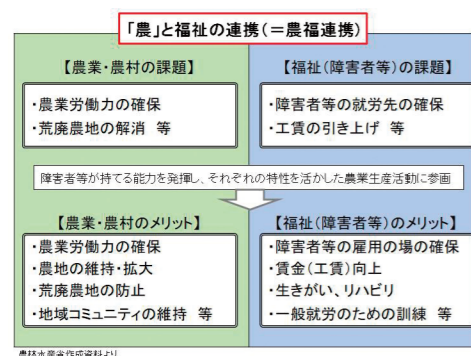


図2 農福連携スタートアップガイド

お問い合わせ先：中央西農業振興センター高知農業改良普及所
(TEL.088-861-0711) (FAX.088-861-0660)

役立つ！ 得する！ 情報 えいのう〜

鳥獣被害対策専門員からのお知らせ



春野・土佐市地区

鳥獣被害対策専門員 上地 かずひさ 和久
携帯電話:090-3189-0373



鳥獣被害対策専門員の行う支援について

鳥獣被害対策専門員は高知県鳥獣対策課の配置事業として県下に16名おり、地域に密着して幅広い支援を行っています。支援内容は、以下のようなものがあります。

- ◆被害相談
農作物被害があった圃場に赴き、被害状況の把握や対策方法の提案などを行います。
- ◆被害調査
自動カメラの設置等を行い、加害獣の特定や、侵入ルートの判別を行います。
- ◆柵の設置指導
電気柵やワイヤーメッシュ柵などの設置方法を指導・補助します。
- ◆事業活用のサポート
多くの市町村が獣害対策に対して補助金を出しています。その申請等のサポートをします。
- ◆新規狩猟者へのサポート
狩猟免許の取得や、罠づくりのサポートなどを行います。罠づくりに必要な道具をお貸しすることもできます。
- ◆勉強会の開催
希望する地区において、鳥獣被害対策勉強会を開催します。

このように、鳥獣被害対策専門員は様々なサポートを行っています。被害に遭われた方、狩猟に興味がある方、ぜひお気軽にお問い合わせください。



地区での勉強会の様子

手軽に健康 手指体操

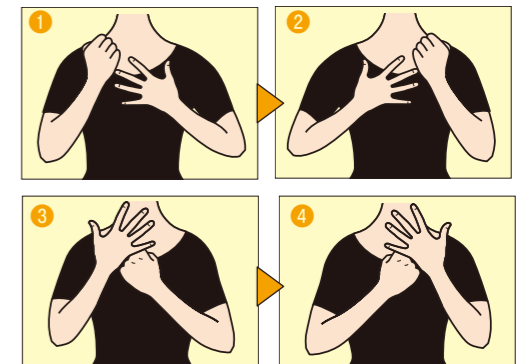
ゲーとパーの体操でエネルギーを循環

健康生活研究所所長 ● 堤 喜久雄

介護施設でも好評のゲーとパーを使った体操をご紹介します。運動が苦手な人や高齢者でも行いやすく、かつ効果の高い体操です。基本の動きができるようになったら、体操の動きのリズムに合わせて「いち、に、さん、し」と声に出して行うとよいです。今回は手指体操の最終回です。手指体操は手指の筋力を鍛えるだけでなく、手の指先から足の指先まで全身の血行を促し、内臓諸器官の働きを高め、脳の若さを保ち、心と体の疲れも癒やす体操です。健やかな毎日を送るために、今までご紹介してきた手指体操の一つでも続けていただければ幸いです。皆さんの健康寿命が一日でも延び、毎日が豊かになることを祈っています。

ゲーとパーを交互に

- 1 左手をパーにして手の甲を外側に向け、右手はゲーにして左手に付けます。
- 2 次に右手をパーにして手の甲を外側に向け、左手はゲーにして右手に付けます。①と②を10回繰り返します。
- 3 左手をゲーにし、右手はパーにして手の甲を外側に向け、中指を左手に付けます。
- 4 次に右手をゲーにし、左手はパーにして手の甲を外側に向け、中指を右手に付けます。③と④を10回繰り返します。



ポイント ①から④を1セットに5回繰り返します。ゆっくりで良いので動きを正確に行うことを意識しましょう。パーは手のひらの筋肉も伸ばすイメージで指先までしっかり伸ばします。

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

今日、驚くほどの営農の発達、科学技術の発展は面白いですね。

(春野町西分 80歳)

農業も働だけでなくIT導入が進む時代ですね。

(春野町南ヶ丘 66歳)

▼1月号の特集は「TOPクラウドSAWACH」の運用スタート。高知県では全国に先駆けて農業のデジタル化に力を入れています。これまで培ってきた「経験と勘」だけではなく、その技術を新規就農者や後継者に伝えるときに役立つ「データ」、これを基に栽培管理を行う農業への関心がより高まって欲しいですね。

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール、とっても上手に描けていて、感動しました。

(春野町弘岡下 80歳)

▼JA高知県では、県内の小・中学生を対象にコンクールを毎年開催しています。今年も、お米・ごはん食に関する思い出や考えたことなど、率直な気持ちで自由に表現された作品が134点寄せられました。たくさんのご応募、ありがとうございました！

受賞作品はホームページに掲載されています。コチラをチェック！



毎号、うちのくんの台所を楽しみにしています！
今月も早速作ってみたいと思います。

(高知市東秦泉寺 34歳)

▼1月号では、安芸支部川北地区の女性部の皆さんが3品紹介してくれました。「金時豆の押し寿司」は彩り・盛り付けも丁寧で、写真もとても綺麗ですね。金時豆は普段使わない人も多いと思いますが、簡単に作れるのでぜひお試しあれ。

チクカツ！を見て小学校の頃に田植えやきゅうりの収穫体験をしたことを思い出した。自然と触れ合い、とても印象に残るものなのでいい活動だと思う。

(春野町弘岡上 20歳)

▼チクカツ！では生産者と協力しながら、梶原高等学校の生徒たちに野菜や特産品、農業を発信する出前授業の取り組みを紹介しました。子供の頃に田植えや収穫体験をすると、自然と触れ合える良い機会・経験になりますよね。

気になっていた「美味館」の紹介。ぜひ食べに行こうと思いました。

(高知市加賀野井 75歳)

▼コチットのイチオシ！では長岡温泉館内のお店を紹介しました。大きく紹介した「エビチリ」もおいしいですが、私のオススメは「ゴマ団子」。とても大きく食べ応えがあり、あんこたっぷり。揚げたてがとっても美味しいです！

月1回ポストに入るこうぐりを楽しみに読ませてもらっています。

(高知市鴨部 72歳)

▼ありがとうございます。誰かの楽しみになれるような広報誌になって、とても嬉しいです。来月号もお楽しみに！

今月の川柳

つやつやの おいしいみかんは 庭の枝に

(高知市高須・40歳)

大雪による被害はありませんでしたか？

春野支所共済課・共済普及課は、昨年12月末に発生した大雪による被害の被害調査及び共済金の支払い手続きを進めています。

建物更生共済加入契約のJA高知県管内での大雪による被害件数が3,269件（令和5年1月27日現在）、その内、春野支所管内では280件以上の被害報告が、組合員・契約者様より寄せられています。

春野支所管内での被害は、「樋」「瓦」が大半を占めています。被害報告があった場合は、LA2人体制で訪問し被害調査を進めています。樋・瓦などは降雪による重みで変形したり割れたりしているケースが多く、予期せぬ大雪による被害が多数発生しています。春野支所では、迅速な被害調査、共済金の支払いに向けて努めています。

建物更生共済ご加入中の組合員・契約者の方で大雪による被害があった方は、共済課、担当LAまでご連絡下さい。



雪の重みで変形した樋

春野支所 共済課
TEL：088-894-3304